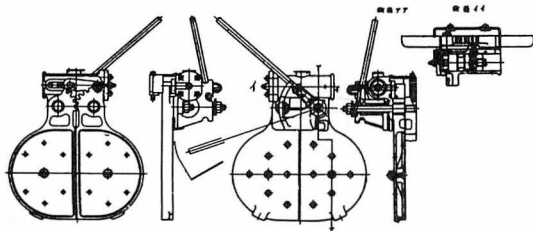


和9・10全線開通高山本線と改められた。(森 梯寿)

たがわせん 田川線 日豊本線行橋駅から西南方の田川炭坑地帯をとおり、南下して添田駅に至る38.4kmの線。ほかに勾金・夏吉間2.3km、豊前川崎・第一大任間0.9km、豊前川崎・第二大任間1.9kmの支線を含め、営業キロ計43.5km。日豊線に属し丙線である。明治28・8行橋・伊田間、明治32・7伊田・豊前川崎間豊州鉄道株式会社によって開通、明治34・9九州鉄道株式会社に合併、明治36・12豊前川崎・添田間開通、明治40・7鉄道国有法によって国鉄に移管、経過地の郡名をとって田川線と呼称、昭和17・8彦山まで開通したものであるが、昭和31・3・15日田線の全通に際し、添田・彦山間は日田線に編入された。また支線勾金・夏吉間は明治32・1、豊前川崎・第一大任間は明治32・7、豊前川崎・第二大任間は明治39・1それぞれ貨物輸送のため建設されたものである。この線は刈田港の石炭積出施設の整備に伴ない、筑豊炭の刈田港への輸送経路として年々輸送量が増加しており、今後においてもこの傾向はつづくものとみられている。(森 梯寿)

たきぐちどそうち たき口戸装置(蒸気機関車の) 火格子上に石炭を投入するためのたき口の戸、および戸を必要に応じ開閉する装置。たき口戸は内開き式のものと同外開き式のもの、あるいは上下に開くもの、左右に開くものがある。戸の開閉を手動によるものと動力によるものがあり、国鉄の主要機関車は動力式を使用している。動力式は蒸気または圧縮空気を利用しており、国鉄では圧縮空気によっている。国鉄で使用している動力式は、たき口戸が左右横開き式の**自動たき口戸**である。自動たき口戸は機関助士の投炭労力を軽減するので、広く採用されるようになった。たき口戸には一般用のものと、自動給炭機を使用の場合に採用する形のものがある。たき口戸の上部にシリンダがあって、足で床面に取付けられた足踏弁を踏むと、弁が開いて圧縮空気がシリンダに入り、たき口戸を八字形に開き、

たき口戸装置



足踏弁から足をはさずと圧縮空気の供給が断たれ、シリンダ内の圧縮空気を排出してたき口戸は閉じる。燃焼状態により、火格子下部より供給する1次空気量のみでは空気が不足するとき、たき口戸を適当に開き、ここより2次空気を補給して完全燃焼によって黒煙の発生を防止する。(高梁五六)

たきやくそう 多客輸送 旅客交通量は季節により相当大幅な波動がある。輸送力もこれに応ずる波動弾力がなければならぬ。定期列車の輸送力は、年間輸送量のいかなる部分を対象にするかという、理論的には最低の交通量を基準として設定し、交通量の波動に応じて臨時手配により輸送力の増減を図るのがもっとも経済的である。しかしこのようにすることは交通量のわずかの膨脹に対しても、臨時手配を行わなければならないので、運転の安全性からも事務上の取扱からも堪えがたいことであるから、定期列車の輸送力は、年間平均交通量を標準として設定し、波動の強い期間または線区に対しては、べつに臨時に輸送力を増強して、定期列車の輸送難を救済しなければならぬことになる。この交通量の膨脹に対処して輸送力を増

強し、定期列車の輸送難を救済することを多客輸送という。多客輸送には春・夏・秋等の季節的波動に対する季節多客輸送、お盆や年末年始または寺社その他の行事による波動に対する行事多客輸送および土曜・日曜の波動に対する週末多客輸送等がある。(竹村茂次郎)

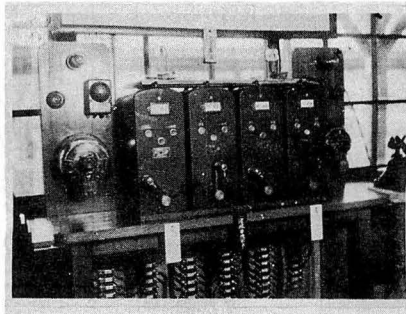
たくあつかいかもつじゅうたくじむてすうりょう 宅扱貨物受託事務手数料 宅扱貨物受託の事務は、駅の係員が行うのが原則であるが、その一部を通運事業者に請負わせている。受託事務およびこれに付帯する作業を通運事業者が行った場合、これに対して国鉄が支払う請負料金を受託事務手数料という。

通運事業者に請負わせている受託事務は、請負人である通運事業者が集貨し、またはその店舗や貨物取扱所において受託した宅扱貨物にかぎられ、受託事務の範囲は、請負業務処理規程中につきのように定められている。

1 受託監査。2 宅扱貨物の受取および受授場所までの運搬。3 ひょう量、着駅選定、運賃算出等の事務。4 通知書の作成および処理(代金引換となるものを除く)。5 荷票、荷札等の作成およびくり付。6 運賃、料金等の收受。7 前各号に付帯する事務または作業。(小川和夫)

たくじょうてんきてこ 卓上電気てこ (英) table interlocker 信号扱所の卓上に簡単にすえ付けられるような電気てこのことで、少数の信号機、電気転轍(てんてつ)機等を操作させるのに使用する。その構造はてこ・回路制御器・電気鎖錠器・表示灯等からなり、てこを左または右へ動かすことにより、回路制御器を回転し、関係電気回路を構成して、信号機の現示や電気転轍機を操作する。この場合種々の条件、たとえば信号機を制御するものでは、その信号機を反位とするに必要な転轍器の方向、あるいは対向する信号機の定位、または軌道回路のある所ではその区間の開通などの条件を電氣的に満足した場合、てこにある電気鎖錠器が解錠し、条件を満足しないときは鎖錠するようになっている。なお卓上電気てこを2個以上設備した場合、必要により相互間に簡単な機械的連動装置(こま)を付加したものもあったが、今日ではすべて電氣的に相互鎖錠を行うようになった。

卓上電気てこは、卓上リバー・卓上連動機・テーブルインターロッカーなどと呼ぶこともあり、おもに第2種電気連動装置に使用される。



卓上電気てこ

また例はきわめて少ないが、配線が簡易な構内を第1種電気連動装置にするような場合や、遠隔地にある転轍器に使用している動力転轍機を操作するような場合にも、使用されることがある。卓上電気てこの構造およびその作用は電気連動機の電気てこと大差はないが、信号てこについて説明してみると、信号てこは中央定位式で、てこが中央垂直となっている場合が定位で、左方Lまたは右方Rに転換した場合が反位である。そこで信号てこでは1本のてこで、2基以上の信号機を取扱うことができる。電気連動機の信号てこは鎖錠片の凸(とつ)部は普通1個であるが、卓上電気てこでは鎖錠片の凸部は普通2個となっている。電気連動機では関係転轍器との連鎖は、てこ相互間でこま組による機